コミュニティ静岡

あなたのまちの
コミュニティ活動情報誌

2017
4月
No.146

笑顔はじける人形劇団

人形劇団まいむ（小山町）

24年間楽しく活動しています。

▼幼稚園の保護者の学びの場「家庭教育学級」の中で、人形劇に携わったことをきっかけに、我が子の卒園後も人形劇活動を続けていきたいと意気投合した４人で、平成５年に立ち上げた人形劇団。メンバー宅の離れ屋に拠点を置き活動している。

昔話や絵本を参考にしながらも、脚本・人形・大道具小道具・音楽等、全て手作り。機材や蹴込みも自前で揃え小山町内外の幼・保育園、福祉施設等に出向き、人形劇や大型絵本で物語の世界に触れる楽しさを子どもたちに届けている。

▼平成９年度、コミュニティ活動賞の奨励賞受賞を機に、小山町に人形劇フェスティバルの開催を提案したところ、町のイベントとして年に１度開催されるようになった。当劇団も出演劇団の選考や交渉、調整役、出演者として参画。今では小山町を代表するイベントになっている。

▼「いつも前向き、切磋琢磨、自由に意見を出し合える仲間であることが、24年間続けて来られた秘訣」とのこと。「今後も常に向上心を持って、活動を続けていきたい」と代表はいう。

◇代表：宝納由美子さん（問合せ・090-9661-4922）

【情報提供・勝亦智子】

Contents

各地の活動	●小山町	1
地域訪問記	●お経守さまでつながる地域の絆（湖西市）	2~3
各地の活動	●伊豆市・御殿場市・焼津市・島田市・菊川市	4~5
クローズアップ	●楽しくやってます料理講習会（函南町）	6
コミ推協から	●コミュニティ・フォーラム2017を開催しました	7
	●コミュニティカレッジ、活動集団育成事業のお知らせ	8

コミック

のりづき・りえ

地域訪問記

「お経守（きょうもり）さま」でつながる地域の絆

橋本大般若経お経守保存会（湖西市）

県の西の町、湖西市新居町。橋本地区のある浜名は、平安時代より歌にも詠まれた「浜名の橋」のたもとに栄えた交通の要衝であるが、裏腹に度重なる地震や津波、高波の被害に見舞われる防災の重要拠点でもある。

今回、湖西市の指定無形民族文化財の大般若祈祷会「お経守さま」について、日ヶ崎町内会長尾崎さん、金子さん、東福寺住職伊藤さんにお話を伺った。

謎を呼ぶ「お経守さま」とは？

江戸時代から続く旧橋本村の日ヶ崎（ひがさき）・若磯（わかいそ）・杣川（そまがわ）・高師山（たかしやま）に伝わる大般若経祈祷会のことである。現在はお寺（東福寺）で行われてはいるが、明治５年までは諏訪上下神社で行われていたと言われ、元々寺院の行事というより村が主催者となって守り伝えてきた。「女帯」を持ち配札人を「お経守さま」と呼ぶなど一線を画した独特のものである。

アコーディオン演奏のような転読

無言で訪ね、無言で迎える

去る１月15日、午前10時より東福寺にて大般若経の転読が始まると正装したお経守さまが、経本１冊･帯･お札をロジ箱に入れ、徒歩で各戸を訪ね無言で玄関から床の間に入りお札を無言で置いて行く。なぜ無言なのか？神様の使い人だからとも考えられるが、昔からの言い伝えとしか知る者はいない。配られる方も礼を正してお経守さまを黙ってお迎えし、ありがたく頂戴するのである。行事の始まりは確かではないが、土地柄災害等が

礼服姿で訪問に出かけるお経守さま

昭和までは紋付羽織袴姿のお経守さま

多く慰霊の意味も込めたものではなかったのだろうかと伺った。今年は、７人で170戸余りを約２時間半で配り終えた。

現在、大般若祈祷会は総勢30余人で地域の家内安全･商売繁盛・豊漁・海上安全を祈願している。

これまでも、これからも…つながりが大事

以前は全戸に配られていたが、最近は申請制となり回覧板でお札の要不要を確認している。生活様式・社会情勢が変わり昔に比べて数が減ってきているのが現実である。

毎年４町内会が当番で地区の行事を仕切る仕組みとなっており、当番町内会は「年番町」と呼ばれている。

終了後は全員で膳を囲む。招待客をもてなす会長

今年、年番町を務めた尾崎会長は、このままではいけないと若い人や新しく住人となった人にも伝統行事を理解してもらうためにチラシを作成し町内に回覧した。お札の申請が大幅に増えたということにはすぐには結びつかなかったそうだが、無形民族文化財であるこの行事の伝承のため大役を務める者としての使命感が伝わってきた。次期日ヶ崎町内会長になる金子さんも「自分の代で伝統を途絶えさせるわけにはいかない。次の代に繋いでいくことが大切である」と意欲をのぞかせていた。

ご先祖様がつないできた「お経守さま」の文化が現代の橋本の「皆でやろう、助け合おう」の心意気となっているようである。今後、いつ起こるかも知れない災害にもきっと活かせることだろうと感じた。

◇代表：尾崎正義さん（問合せ・053-594-6037）
【情報提供・荻野幸宏】

レポート・中村弘美　編集委員

右から尾崎会長、金子さん、東福寺伊藤住職

■地域をつなぐ人

町のにぎわいづくりをめざして

NPO法人新居まちネット　**寺田敏幸** 氏

私の出発点

定年後「さて、これから何をしようか」と思っていたところ、旧新居町教育委員会が主催する新居関所の勉強会に参加しました。そこで新居の歴史を知れば知るほど、「新居町って素晴らしいところじゃないか」と郷土愛が目覚めていきました。

平成14年、東海道400年祭が行われ、勉強会で知り合った仲間と観光客をもてなすことを目的に、「新居宿史跡案内人の会」を立ち上げたことが、私の町づくりに参加しだした出発点です。

観光案内に携わるにつれ

「関所と旅籠だけでは観光集客としては弱いな」と思案していたところ、旧芸妓置屋小松楼の保存活用に取り組む団体を「手伝いに行ってくれないか」と頼まれ、そこで、関所と紀伊国屋に次ぐ第3の観光資源としての活用を目的に「小松楼の保存修復を第一目標にしよう」と取り組み始めました。

平成21年「国登録有形文化財」に登録

新居町が地所を取得したことで初期の目標が達成し、「案内人の会」へ戻る予定でしたが、改修費用を日本財団に求めたところ「地域の福祉や町の活性化のために使用する」「法人である」という条件でしたので、それなら観光＋高齢者福祉に活用と急きょ方向転換。条件をクリアするために、NPO法人新居まちネットを仲間と立ち上げ、介護予防に効果があるといわれる「回想法」を学び、ミニサロン「地域の茶の間」を開催しています。これにより小松楼は、観光拠点とまちづくり拠点として多くの交流を生み出す場として生まれ変わりました。

振り返って

とは言っても、町の活性化のためにはやはり観光部門にも踏み込んで行かなければなりません。現在、「浜名湖おんぱく」開催を行っていますが、各種団体との交流を深め、町に賑わいと活力を戻し、地域を活性化させるのが今後の目標です。

「案内人の会」立ち上げから15年が経過しました。今感じることは「趣味として行動」「前を向いて進む」「新居町が好き」の心で来ました。更に、新居町民の言い出しっぺを応援してくれる気質に助けられてきたと思います。苦労とか負担は特に感じませんが、妻の理解と協力がなければここまで来ることが出来なかったと感謝しています。

まちから・むらから

●伊豆市

節分祭はふれあう行事

土肥神社、水口区

大きな袋を手に訪問する子どもたち

▼土肥神社節分祭は、土肥地区8つの自治会が当番制で土肥神社役員と共催で毎年開催している。

この時撒く豆袋6000袋には、煎った豆と福金が入っており、それを用意するのは当番地区の住民である。各地区から選ばれた年男や神官、各地区総代が邪気を払い無病息災を願い威勢よく大勢の地域住民を前に豆をまく。

▼神社とは別に、夕方からは小学生以下の行事が始まる。自分の住んでいる地区の商店や旅館などを回り、たくさんの豆やお菓子をもらい歩く習わしである。昔は他の地区の子どもも押し寄せ、用意していたお菓子がすぐ無くなってしまったこともあったが、最近は余ってしまうので付き添いの保護者にも渡したりと時代の流れを感じる。

普段あまり交流のない子どもたちが訪ねてくる楽しみや、大きな袋一杯にお菓子を詰め込み、楽しそうにまちを歩く姿が見られるこの風習は、まさに昔からのこの地区ならではの伝統行事である。

◇代表：福室博征さん　（問合せ・0558-98-1427）

【情報提供：小長谷順二】

●御殿場市

口コミで広げる、緑化も広がる

NPO法人富士山ナショナル・トラスト

▼平成8年、御殿場口一帯崩落の広がりを危惧した人たちが、崩落の原因となっている雪崩を緑化によって防ごうと立ち上げ、植樹を中心とした保全活動を行っている。会員は80人、定年後の男性が多く口コミで会員が増えていった。

会では、富士山に自生する樹木の苗木を毎年1万本つくり、1万本の植樹をすることを目標に活動している。活動経費は、会費と学校や企業などを対象にした植樹講座により確保され、その講座では主力会員が講師となり植樹の目的や意義について生き生きと指導している。

▼年1回開催する植樹祭には、毎回総勢600人を超える参加があるが、これも植樹プログラムに参加した人たちの口コミのお陰とのこと。知り合った人とのつながりを大事にしている。

いつの日か、自生する花木を植樹した所に遊歩道を作り、誰もが気楽に訪れる場所にしたいと願っている。

※4月28日～30日植樹祭開催！是非ご参加ください。

植樹祭の1コマ

◇代表：花田文夫さん（問合せ・080-2663-5080）

【情報提供：近藤典子】

●焼津市

楽しさと学びを届ける浪蔵劇団

浪蔵劇団

楽しく伝えて、防犯啓発

▼地域の人たちに寸劇を通じて防犯対策や認知症高齢者への接し方などを学んでもらい、安全で明るいコミュニティづくりを目指そうと平成21年、焼津市小川地区の住民5人で劇団を結成。団員は、65歳以上で最高齢は代表山口さんの83歳である。

▼毎回公演先では、和やかな雰囲気に包まれ笑いが絶えなく、親近感や一体感が醸し出されている。なぜなら、観客の方々が日常利用している周辺の店や方言を調べてアドリブを利かすなど、親しんでもらうための工夫によるものである。

▼「笑いも感動もあって引き込まれた」「心が温まり涙も溢れた」などの声を励みに、これからも、登場人物になりきり楽しく続けていこうと言っている。代表は、いつの間にか登場人物の「浪蔵じいちゃん」が体の中に住み着いているような気がしているそうだ。

◇代表：山口浪男さん（問合せ 054-627-5617）

【情報提供：関　富美子】

各地の活動情報

●島田市

おかわり続出！山芋お楽しみ会　伊久身地区やまびこクラブ実行委員会

10キロするのに1時間以上掛かりました

▼去る1月22日、伊久身農村環境改善センターやまびこで、「山芋お楽しみ会」が開催された。参加者は72～94歳の計34人。開催にあたり自治会、コミュニティ委員会、保健委員の方々などの協力を仰いだ。

▼メインイベント山芋昼食会では、地元で採れたやまいもの山かけごはんをいただく。朝、男性スタッフ10人ですった10キロの山芋は、粘り強い芋汁と絶妙な味付けによりおかわり続出。一人で5杯食べる人もいた。

▼参加費500円で健康チェックから始まり、演芸を楽しんで昼食後は地域おこし協力隊2人によるアトラクションの二人羽織に捧腹絶倒。ラストのじゃんけんゲームでは10人が商品を受け取り、大盛況のうちに閉会となった。

▼敬愛するお年寄りにおおいに楽しんでもらおうとするスタッフの気合を感じ、老人福祉意識の高さがうかがえた会であった。

◇代表：石神文雄さん（問合せ・0547-39-0618）

【情報提供・堀崎晶子】

●菊川市

町部（ちょうぶ）の子どもたち雪と豆に大歓喜！　町部地区コミュニティ協議会、青少年健全育成市民会議町部支部

▼菊川市では毎年、友好交流都市である長野県小谷（おたり）村から雪のプレゼントが届く。今年は町部地区が恒例行事の節分まつりに雪まつりを合体させ、子どもたちだけでなく地域住民にも楽しんで交流してもらおうと企画した。

▼当日、町部地区センター駐車場には1,000人以上が訪れた。用意した無料提供の豚汁、甘酒、焼き芋は午前中に終わってしまい、小谷村の特産物もほぼ完売した。午後の豆まきには、交番のお巡りさんや小谷村の皆さんも参加。体育館にはいつもの倍以上の参加者が集まり、お菓子が少なく感じるほどだった。初めてのことで雪遊びなど会場のレイアウトを考えるのが大変だったが、前回開催地からのアドバイスや重機を出してくれた地元企業、子ども会役員などの協力があり、大盛況で終了することができた。

改めて地元と地域のつながりが大切であるとともに雪の集客力のすごさを実感した。

10tトラック2台分の雪のプレゼント

◇代表：増田哲志さん（問合せ・0537-35-5235）

【情報提供・渡邊政幸】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（HP　http://www.sizcom.jp ）

No.	市　町	活　動　名	主　催　者	趣旨・目的	月　日
1	東伊豆町	東伊豆の歴史・文化・自然を考える「東伊豆ふるさと大学」	NPO法人 まちづくりネットワーク 東伊豆支所	故郷を知り、学び後世に伝えてゆく	月　1回
2	伊豆の国市	水晶山の整備	水晶山の会	地域の力で整備し利活用	
3	沼　津　市	富士を背景にフラワーロードを憩いの場に	コミねっと大平	地域の憩いの場づくり	月　約2回　日曜日
4	富　士　市	桜並木の剪定	百歩の会	育てた桜並木を住民とともに剪定作業	平成29年1月11日～15日
5	吉　田　町	楽しくLet‘sクッキング	片岡きらめき塾	和食の良さを知ってもらいたい 子供でも作れるレシピを考案	平成29年2月4日（土）
6	菊　川　市	招福健康まつりでチンドン屋が来るよ！	河城地区コミュニティ協議会 健康福祉部	健康で生きがいを持って生活しましょう	平成29年2月5日（日）

クローズアップ

“楽しくやっています”
料理講習会で、お互いに理解を深め合う
さんさんクラブ（函南町）

函南町は、伊豆半島の入口に位置し、緑豊かな自然とどこからでも富士山を望むことができる町。函南町日守の中里地区に料理講習会を通してコミュニケーションを図ろうと、平成27年11月に50～80代の女性9人で新たな女性有志の会「さんさんクラブ」が結成された。今日は6人にお話を伺った。

左から、杉山さん、小笠原さん、田中さん

左から、杉山さん、西川さん、柿島さん

集まる場所が欲しかった

中里地区は20数年前までは婦人会組織があり活発に活動していたが、役員のなり手が無く消滅した。戸数も29戸と少なく、今では集まる機会が全くといっていいほどなくなり、女性の唯一の交流の場は「日守地区運動会」である。

そんな中、研修施設の調理に永年携わっていた小笠原さんが転居してきた。移住して6年は地域に関わることがなかったが、組長の当番になったので参加した運動会が思いのほか楽しかった。打ち上げで女性陣から「何かやりたいね」と話がでたことで小笠原さんが代表となり、地域住民の集まる場として奇数月に西部コミュニティセンターにて1回千円の材料代で料理講習会が始まった。

自由な雰囲気で作業開始！

みんなが主役の場づくり

手際よくすり身をゆでる

8回目の前回は、会員の田中さんの提案で、久しぶりにイワシ料理を手作りしてみようとイワシを2箱購入し、すり身にしてつみれ汁とさつま揚げにしていただいた。昔は各家庭で手作りしていたそうだ。

「私はあくまで進行役」と小笠原さんがいうように、皆で献立を提案し皆が講師となる講習会を目指している。次回は柿島さんからコンニャク作りを教わり、4月の節句に合わせて太巻き寿司も作る予定だ。毎回喜んで家族に送り出してもらえるよう、夕飯の足しになるお土産分も用意するなど配慮は怠らない。

これからは

取材中皆さんから「生活の楽しみが増えた」「気楽に声掛けが出来るようになった」「出れば楽しく話に花が咲く」「この日を心待ちにしている」「このつながりが、もっと年を取った時に良い関係を築く力となり発揮できると思っている」と喜びの声があがり、久しぶりの女性会を楽しんでいることが伝わってきた。

最後に「料理講習会以外にも地域の名所旧跡の視察や、講習会で作った料理を男性陣が食べにくる家族参加型の会にしていきたい。」と意気込みを述べてくれた。

一人で食べきれない程のお料理ができました

◇代表：小笠原喜子さん（問合せ・055-944-6970）

レポート・鈴木孝治　編集委員

コミュニティ・フォーラム 2017 を開催しました

“つながる”“つなげる” 地域のデザイン

2017年1月31日(火)　10時～14時30分
静岡市　グランシップ会議ホール風

山崎　亮 氏

今年のテーマは

今年度のメインテーマは「“つながる”“つなげる”地域のデザイン」とし、人口減少社会における地域課題解決のため、地域におけるネットワークについて考え、サブテーマは「ステップアップするコミュニティ」として、今までのコミュニティ活動から一歩踏み出す方策について考えることといたしました。平日開催にもかかわらず、県内各地から約 300 人が参加し開催いたしました。

活動賞表彰：優秀賞４団体　優良賞6団体

基調講演

Studio-L 代表で東北芸術工科大学教授の山崎亮氏に「“つながる”“つなげる”地域のデザイン」と題して御講演をいただきました。豊富な実践事例の中から、地域に役立ち楽しく社会参加した地域事例やお金より時間を資本に公園整備を行った事例を関西弁でパワフルかつユーモアを交えながら熱く語られ、まとめにコミュニティづくりでは、地縁団体とテーマ型団体（志縁団体）との付き合いが大事であると御示唆いただきました。

「事例を出されての講演で、コミュニティづくりの道筋が参考になった」「時間をかけて物事を進める価値や仲間づくりのポイントが参考になった」など、大変好評でした。

ちょっと一息
健康長寿体操
矢﨑昭子 氏

パネルディスカッション

当協議会推進専門委員の川口良子氏をコーディネーターに、地域で活躍している認定ＮＰＯ法人丸子まちづくり協議会（静岡市）、焼津市港 14 自治会、谷津山再生協議会（静岡市）、しろくまＬａＢＯ（静岡市）の方をパネラーに迎え、各団体の事例紹介をしていただきました。その後、各団体の苦労話や課題も含め、サブテーマの「ステップアップするコミュニティ」について議論を深めていただきました。やはり、地域でのネットワークの構築が大事であり、そのためには、今の活動を継続的に行うことも必要であるが、今よりも一歩でも良いから踏み出すことが重要であるとの御提言をいただきました。

「各団体の取組み、事情や工夫を教えていただいた」「地域内の諸団体の連携と情報交換を意識していく」など、今後の活動に活かしていく意見が多くありました。

パネルディスカッション出演者

28年度運営検討会議

本協議会の事業運営などについて検討する「運営検討会議」を静岡市で２月８日に開催しました。角替弘志氏など 10 人の学識経験者などが出席され、コミュニティカレッジ受講生の確保、コミュニティ読本の改訂などの提言をいただきました。これらの意見は今後の事業運営に活かしていきます。

～岐阜県からの訪問～

2/3 に当協議会の事業について興味を持っていただいた岐阜県環境生活政策課さんが訪問されました。「コミュニティ診断士」など興味深い事業をされており、お互いの情報を交換することができました。

地域活動に関心のある方へ！お知らせ

★コミュニティカレッジ開催します

当協議会では、コミュニティづくりの大切さ、地域での話し合いの進め方、などコミュニティ活動を進める上で必要なスキルや知識を学ぶ講座、「コミュニティカレッジ」を毎年開催しています。

なお、申込受付等の詳細につきましては、関係機関等を通じて別途改めて御案内します。

お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

※内容については、後日確定します。

回数	月　日	10：00～12：00	13：00～15：30	会　場
1	7月29(土)	・開講式 ・自己紹介／アイスブレイク	講義 「コミュニティづくり」（仮）	県総合社会福祉会館（静岡市葵区）
2	8月5日(土)	講義 「コミュニティリーダー」（仮）	講義 「話し合いの進め方」（仮）	
3	8月中	活動集団現地訪問（県内3カ所選定）		1カ所に参加
4	9月9日(土)	ワークショップ「コミュニティ実施計画づくり」		県総合社会福祉会館（静岡市葵区）
5	9月23日(土)	10：00～11：30	11：30～12：00	
		記念講演「未定」	閉講式	

★コミュニティ活動集団育成事業まもなく募集開始します

趣　旨

この事業は、人々が協力し合って住みよい地域をつくるために活動する集団を「コミュニティ活動集団」として指定し、活動に必要な経費の一部を助成することによって、地域の先導的役割を担う活動集団の育成支援を行うものです。お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ。

指定の期間　毎年度4月から翌年度３月までの2年間とします。

活動経費の助成　募集集団数15集団。活動経費として1集団当り、初年度7万円、翌年度3万円を助成します。

活動集団の指定　申込みに対してその内容を検討し、指定します。

編集・発行

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町１－70
総合社会福祉会館３階

TEL 054-251-3585

FAX 054-250-8681

URL http://www.sizcom.jp

E-mail sizucom0829@po.across.or.jp

※地域情報お寄せ下さい。

スポーツ安全保険®

公益財団法人 スポーツ安全協会 静岡県支部

〒422-8004 静岡市駿河区国吉田5-1-1 TEL054-262-3039

電話受付時間　午前9時～午後5時（土、日、祝日を除く。）

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org

●資料請求は、インターネットより受付けております。

スポーツ安全協会　検索

インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

携帯電話から資料請求ができます。